

# JA いしかり



6-7P

特集

## 秋のスポーツ特集

12P

連載

“還暦おやじ”の新人農業者手帳

ゆづき ひろふみ

平成27年度新規就農者

遊佐宏文さん

2018

9月号

Vol.354

# 求められる道産食材を実感

～ 役員海外視察 in台湾 ～



▲展示品の説明を聞く様子



▲台北国際見本市会場



▲日本産牛肉



▲日本コーナー

6月26日～29日、役員海外視察研修を行いました。視察先の台湾は全日晴天、連日30℃を超える気温で湿度も高く、歩くだけでも汗ばむ気候で、今年は雨不足で干ばつ気味の天候が続いているとのことでした。

まず始めに、台湾最大級の台北国際食品見本市を見学しました。これは毎年開催され今回28回目となるイベントで、世界36カ国・地域から6万人以上が参加し、国内外の食品業者による新商品発表会を通じて新商品や新設備を体験することができるようものです。台湾市場への販路開拓を目指す世界の企業が出展し、台湾のみに留まらず多くの国から視察にきていました。各地の食品や加工品、食品包装機械等が並ぶ中、日本からもギフト用商品、牛肉、水産品・水産加工品、お茶、お菓子など62ブースが出店していました。北海道の農産物では、「全農」が網走地区の牛肉（ホルスタイン種）、また、十勝管内の農協が小豆を粉末に加工したお茶を出品していました。

続いて、日本産米の現地精米・販売会社である「株式会社ワッカ・ジャパン」の台北精米所「三代目俵屋玄兵衛」を視察しました。この会社は札幌市白石区に本社を置き、2009年に香港を皮切りにシンガポール、ハワイ、そして台湾に精米所を立ち上げて販売しています。海外進出のきっかけは「自分たちが本当においしいと思うお米を海外でも食べたい」というもので、当時の香港は他国で生産された日本米が主流で鮮度・食味共に満足できる日本産米がなく、たとえ同品種であっても他国産日本米では味を再現することができませんでした。そこで、自分たちが納得できる安心でおいしい日本産米を玄米で日本から直接仕入れて、現地での精米と販売をスタートしました。

台湾の精米所は従業員6名で精米から販売まで行っており、日本のように専門の倉庫ではなく、商業地域の高層ビルの一室で玄米の保管と精米を行っていたのは大変驚きました。現在は、低温コンテナで1ヶ月に16トン



▲精米作業中



▲4F・C4に台湾和華貿易有限公司(株式会社ワッカ・ジャパン)が入っています



このビルの4Fに入居しています



▲ワッカ・ジャパンの担当者による説明



▲「七星米」ななつぼしです



▲4Fの精米所風景



地元特産の葉菜が作付されているビニールハウス



▲長ネギです



▲高雄の農家の方による状況説明

## まとめ

台湾では、多くの方が観光で北海道を訪れて、安心・安全でおいしい北海道食材に興味を持っており、今後も北海道米の需要が期待できると強く感じた今回の視察研修でした。

を石狩湾新港から船で2週間かけて会社に運びます。30kgごとの玄米で届き、低温保管しながら都度精米し2kg・5kg・10kgの紙袋で販売しています。

台湾で仕入れている米は現在、主に上川管内の「ななつぼし」を中心に道産米が8割、その他は新潟県産などで、販売先は飲食店を中心とした業務用が8割を占めており、個人に対しては注文販売で宅配便を利用し配送するシステムです。

個人向け小売は、産地や品種により2kg入りを1,700円超えの価格で販売しており、新鮮で安心なおいしい米という事もあり、また、日本食ブームの後押しもあり富裕層を中心に売上が伸びているとのことでした。

業務用として使用するレストラン等は、トレイサビリティや農薬使用に関する履歴がしっかり管理されている事を重要視しており、おししさはもちろん安全性にも重点が置かれているとのことでした。

最後に、島の南側に位置する高雄という地域に新幹線で移動して現地の農家の圃場を視察しました。作付面積は20haで、水稲は温暖な気候を活かして3毛作を行っており、また野菜は葱や南瓜、日本では栽培されていない特産野菜などを地元の市場に出荷していました。この地域は、大規模化や機械化が進んでおらず、先進的な技術はあまり感じられませんでした。農家の方は、今年の雨不足に対する灌水施設もなく、干ばつ対策に困っていると話をしていました。

# 即戦力！ 中国人実習生を受入



6月からベジタブルファクトリーで中国出身の3名が外国人技能実習制度を活用して実習に励んでいます。これは、開発途上国の「人づくり」に協力することを目的に外国人を受け入れる制度ですが、当JAでは今年から試験的な導入として7か月の最短プログラムで行っています。

取材時はブロッコリーの撰別作業中でしたが、実習生の仕事ぶりは大変真面目で段取り良くテキパキと動いていました。1ヶ月間の研修を経て来ていますが、一緒に働いているパートさんとも打ち解けて、日本語もゆっくり話せば通じることが多くなってきました。

とてもフレンドリーな方々なので、皆さんも実習生を見かけたら是非一度声をかけてコミュニケーションをとってみたいはいかがでしょうか？

シャ フキンさん (33歳) 写真左

**出身** 中国河北省

**家族構成** 夫、子供2人 (12歳、8歳) の4人家族

**自宅での主な作付け**

米や小麦を中心にミニトマト、ブロッコリー、ピーマン、唐辛子、人参、キャベツ、ほうれん草など

**農業者の皆さんへひと言**

この環境はとても良くて、私たちにとっても親切な方ばかりで大変感謝しています。11月までですが頑張りますので宜しくお願いします。



カン ケイカさん (35歳) 写真中央

**出身** 中国河南省

**家族構成** 夫、子供3人 (16歳、13歳、11歳) の5人家族

**自宅での主な作付け**

大麦を中心にキュウリ、ナス、南瓜、トマトなど

**農業者の皆さんへひと言**

私たちはここで農業を学びに来ました。とても楽しくて皆さんとても優しく感謝しています。これからもどうぞ宜しくお願いします。

シン ガクランさん (30歳) 写真右

**出身** 中国河南省

**家族構成** 祖母、夫、子供3人 (9歳、8歳、6歳) の6人家族

**自宅での主な作付け**

大麦を中心に人参、ナス、ピーマン、キュウリ、ほうれん草など

**農業者の皆さんへひと言**

農協に来て農業を学ぶのはとても楽しくて、研修先では皆さんにとってもお世話になっています。これからもどうぞ宜しくお願いします。

## 簡単な中国語

「你好 (ニイ ハオ)」

▼  
こんにちは

「早上好 (ツァオ シャアン ハオ)」

▼  
おはようございます

「不客气 (ブクァチ)」

▼  
どういたしまして



## 大根・人参共撰が始まる！！



7月27日から大根共撰を開始しました。6月の天候不順により、昨年よりも6日遅い共撰開始となりました。今年も須藤聖治さん（北生振地区）と青木義徳さん（五の沢地区）の2名の生産者で、主に札幌市中央卸売市場と石川県金沢市中央卸売市場向けに出荷し、10月下旬までの予定で共撰を行います。

また、8月3日からは人参共撰を開始しました。今年度からJA北いしかりとの事業連携により、人参共撰を共同で行うことになりました。開始にあたり、当JA人参部会の横山忠昭部会長より「JA北いしかりと共同で共撰を行うことになり、面積も少し増えます。共撰作業も10月までと長期間となりますので、体調管理に十分気を付けます。」と挨拶を頂きました。

2JA合計の作付面積は約26haで、札幌みらい中央卸売市場や昨年までJA北いしかりの販売先だった新潟市三条中央青果卸売市場と滋賀県長浜合同青果卸売市場へ10月下旬までの予定で共撰出荷します。

「JA北いしかり人参部会の佐伯孝夫部会長から「今年からJAいしかりで共撰をお願いします。品質の良い人参を出荷できるように栽培管理を行っていきますので、よろしくお願いします。」と挨拶を頂きました。」



## 共販出荷開始



7月17日から高岡メロンの共販出荷が始まりました。3月中旬から播種作業を始め、6月の天候不順と大雨のため、メロンの栽培管理が非常に難しい年となりました。適度な温度と水分などのハウス管理を行い、昨年と同じ時期の共販出荷となりました。メロンの品質も上々で、主にお中元などの贈答用や、徳島県の「阿波踊り」の開催に合わせて徳島青果株式会社へ出荷する予定となっています。高岡地区4名の生産者により出荷作業は8月10日頃までの予定です。



また、7月27日から早出特選馬鈴薯の共販出荷が始まりました。4月の定植作業後から被覆資材を使用して生育促進を行っていたところ、6月に低温と長雨が続き生育が心配されましたが、7月19日から無事に出荷を開始することができました。

今年には10名の生産者で、今後は出荷量も増える見込みで9月9日までの予定で札幌みらい中央青果に販売します。

# SPORTS —秋のスポーツ特集—

## 石狩パークゴルフ協会主催の大会に協賛



6月10日、厚田区シーサイドみなくるで石狩パークゴルフ協会主催の春季大会が開催されました。晴天の下で熱戦が繰り広げられ、好成績が続出し、優勝はニアピンによる決定戦となりました。

JAいしかりは、『サポーター550万人づくり』の一環として「1. 食べるサポーター」「2. 利用するサポーター」「3. 参加するサポーター」「4. 行動するサポーター」のスローガンに基づき、食べる・利用するを目標に大会数日前から会場にのぼりを立て、当日は協賛の趣旨説明を行い、参加者全員を対象に抽選で5名に協賛賞として、地物市場「とれのさと」の商品券を手渡しました。

## JAいしかり杯 石狩市夏季少年野球大会に協賛



7月16日、22日の2日間にわたり、石狩市内の7チームが参加して開催された石狩市夏季少年野球大会へ昨年に引き続き協賛しました。

これは、「食と農でつながるサポーター550万人づくり」の一環として行っているもので、地場産米ななつぼし「加夢加夢」やJAオリジナル商品「春恋ラーメン」を参加チームに贈呈しました。

開会式では中村武史代表理事組合長が挨拶を行い、地場産農産物の消費拡大をPRするとともに、各チームに

参加賞を手渡して健闘を祈りました。また、食育アンケートを実施してJAへの理解向上とサポーターづくりに取り組みました。

受賞したチームの皆さんは「キャンプや合宿でいただきます！」と大変喜んでいました。





和島選手

池田選手

瀬能選手

千田捕手

# 結果報告!!

熊倉選手

6月30日、第60回石狩管内JA野球大会に当JA野球部が出場しました。この大会は、スポーツを通じて管内役職員の親睦融和と体位向上を図ることを目的に毎年開催されています。

前日までの雨予報が嘘のような快晴に恵まれ、選手全員が一丸となって初戦のJAさっぽろ戦へと臨みました。初回、成田投手が三者凡退で相手打線を抑え、幸先の良いスタートで試合が始まりました。2回表、相手打線の連打により2点を先制されましたが、3回裏に平松選手の二塁打をきっかけに梶選手の進塁打で1点を返しました！しかし、その後は中々反撃の流れを作ることができず6回に4点を奪われ、結果は2-11で残念ながら敗退となりました。

今大会で優勝することを目標に活動をしていただけにとっても悔しい結果となりましたが、強豪のJAさっぽろから2点を取ることができたのは大きな一歩となりました。来年こそは優勝できるようにこれからも練習に励んで参ります！

なお、猛暑の中で応援に来て下さった方々や日頃から支えて頂いている皆様にこの場を借りて野球部一同より厚くお礼申し上げます。

木村選手

梶選手

橋本選手

平松選手

7 JA ISHIKARI

成田投手

喜多投手

寒河江選手

初収穫に大興奮!

## 親子で農業に触れるバスツアー



8月3日、毎年恒例となった石狩市私立幼稚園PTA連合会と石狩市共催による「第11回親子で楽しむバスツアー」が開催されました。毎年募集人数を上回る申込みがある人気のイベントで、今年も親子100名が野菜の収穫体験やレクリエーションを楽しみました。

高岡地区の森田勝弘さんの圃場では馬鈴薯収穫体験が行われ、後継者の森田純也さんの指導のもとで参加した親子は汗をぬぐいながら一生懸命に掘り取り、大きさを競い合っていました。同じく高岡地区の小池裕明さんの圃場ではミニトマトの収穫体験を行い、自分で収穫した実をその場で食べ、「トマトは甘くて栄養たっぷりなので大好き!」「いっぱい採ったのでお父さん、お兄ちゃんにも食べさせてあげる」と初めて収穫するトマトに興奮していました。

収穫体験を楽しんだ後は、高岡ふれあい研修センターに場所を移して栄養士による食育講座を行いました。昼食では、石狩市の栄養士が監修して当JA女性部員が愛情を込めて作った「石狩産米ななつぼしとブロッコリーや人参などの地場産野菜をたっぷり使用した夏野菜カレー」が振る舞われ、おかわりの長蛇の列ができて準備にも配膳にも大活躍の女性部でした。

昼食後は、青年部の協力によりトラクターの試乗体験が行われ、記念写真をパシャ!子ども達にとってこの夏最高のイベントとなったのは間違いありません。



美味しい!

自分で収穫した  
ミニトマトを  
ばくり♪大きな  
トラクターに乗って  
ハイポーズ♪



## ＼ もっと買いたい！石狩産野菜！！ ＼ ～アリオ札幌店で石狩フェア～



7月25日、イトーヨーカドーアリオ札幌店のリニューアルオープンに伴い、特設コーナーにブースを設け、プロッコリー、ミニトマト、キャベツ、レタス、なめこ、かぶ、にんにく、パセリ、小玉スイカ等、12品目を販売しました。

当日は、新鮮野菜を買い求めるたくさんのお客様で賑わい、特にプロッコリーやキャベツ、パセリが人気で、お客様からは「石狩野菜フェアを1日限りだけでなく毎月やってほしい」と「次回開催されるときには、もっと買いたいからね」など多くの嬉しい言葉をいただきました。

次は9月8日の「まるごとフェスタ」で野菜即売会を行う予定で、石狩産野菜の美味しさと知名度アップのためにも引き続きイベント等でPRに取り組んでいきます。

## ＼ 長芋部会現地検討会 ＼

7月12日、長芋部会が現地検討会を行いました。

開会にあたり、宮北義雄部会長より、「今年もたくさん長芋を出荷できるように、この現地検討会を有意義な時間にしていきましょう」と挨拶がありました。

続いて、石狩地区農業改良普及センターの齊藤孝行専門普及員から長芋の栽培管理について、7月上旬になると根が畦間に伸び始めるので畦間の根の位置を確認して中耕すること、追肥のタイミングや芽かき、主な病害虫対策の説明をいただきました。

その後、後藤銀太郎さんと大島浩司さんの圃場を視察し、生育状況や栽培管理などについて会員同士で意見交換を行い、大変有意義な現地検討会となりました。



また、7月17日にはJAとうや湖やさい集出荷センターへ視察研修を行いました。JAとうや湖の大沼主任から生産状況や防除基準と作業機についての説明をしていただき、種子消毒や圃場で使う資材に関する参加者の質問に対しても、1つ1つ丁寧に返答していただきました。

研修後は、伊達市のホロホロ山荘で反省会を兼ねて昼食をとりながら、今回の視察内容や各々の生育状況の報告など色々な話題で懇親を深め、各個人の栽培技術向上への意欲を再確認することができました。

## ＼ 労働力確保へ奮起 ＼



7月19日、札幌市近郊の4JAが主催、ホクレンが後援、北海道アルバイシゴト相談会がサツポロさとらんどで開催されました。当JAではグリーンサポーター事業を行っていますが、年々パート作業の需要も増えている中で人手不足という問題にも直面しており、一人でも多くの方に登録いただく事を目的として参加しました。

説明会では「重たいものは持つの?」「どんな服装でいけば良い?」「どのくらい時間や日数の融通をしてもらえるの?」など、応募の際によくある質問とその答えを説明したり、現場の様子や仕事風景を撮影したビデオを上映しました。その後、各JAブースで働ける時間帯や日程などの細かい相談等を受け、十数名にサポーター登録していただきました。

今回は、石狩市から近い場所で開催されたこともあり、真剣にメモをとりながら耳を傾ける参加者が多く関心の高さが伺えました。

## 顔も姿も見れちゃう♡生産者マルシェ



7月21日と22日と8月11日と12日、地物市場「とれのさと」で、生産者による対面販売「生産者マルシェ」を開催しました。直売所出荷者協議会の会員10名が出店して、とれのさとのコンセプトである「生産者の顔が見える直売所」をPRしました。

毎年恒例となったこのイベントですが、お客様から「生産者から直接話が聞けて安心して購入できる」と好評で、延べ4日間の開催期間中4千人を超えるお客様に来店いただきました。このイベントを多いに盛り上げてくださった出店者の皆様、大変お疲れ様でした。

## らんらん号が八幡SSにやってきた!!



7月17日、八幡給油所の平松係長がSTVラジオの番組に出演し、ホクレンサマーフェア2018のPRをしました。

今年のサマーフェアは、7月1日から8月31日までの間で、ラジオでは店頭でガソリンや軽油を30L以上給油した方に北海道の観光情報が満載のドライブガイドをプレゼントすることをPRしました。「食べる」「観る」「体験する」がコンセプトのドライブガイドで、7月は「道北・道東編」、8月は「道南・道央編」の2冊で北海道179市町村を完全網羅していて大変好評でした。

平松係長は、「私自身ラジオ出演は2回目、12年前に同じくSTVラジオのらんらん号に出演した記憶はあったものの、久

しぶりで原稿を時間内に読み上げるのが一杯でした。でも、伝えたい情報はしっかりと伝えられたので楽しく出演させていただきました。

タイミング良くラジオを聞いていたお客様から『ちゃんと説明していて聞きやすかった』と給油の際に言われて安心しました。組合員さんにも本番前に大きな声で頑張れと応援いただき感謝です！今後とも八幡SS、花畔セルフSSのご利用よろしくお願いたします！』と話していました。



観光情報満載のドライブガイド!

ホクレンSSスタッフ **イチオシ!** 詳細は右ページのGoogle Mapでチェック!

佐藤水産 サーモンファクトリー

お店に立ち寄る人を魅了するインパクト間違いなしの「海鮮ジャンボおむすび」は、十分な1食分のボリュームです。地元の人もおむすび目当てに来店するので、早い時間で売り切れることもよくあります。このほか海産物コーナーや、2階にはレストランもあり、人気のスポットです。駐車場も広々としており、旅の途中に立ち寄りやすいですよ。



わたくしがおすすめします!

JAIしがら 八幡SS 平松さん



## 今月の表紙紹介

～撮影オフショット～



▲しっかり者の長女愛華ちゃん(11歳)は、今年7月に開催された剣道の赤胴大会で最高にプレッシャーのかかる大将を務めて頑張りました。大将らしい戦い方で格好良かったそう。



▲麦畑でハイ・チーズ!撮影しやすいように一部を刈り取りして待っていてくれた強さん。その心遣いに感激です☆



▲生まれた時からパパそっくりの子ども達☆特に長男の陸くん(8歳)は写真を並べても見分けが付かない程でした。シャイだけど優しく、決めたことを最後までやり遂げる根性は親譲り?



ハイ、ひよっこりはん♪



▲末っ子の次女愛莉ちゃん(4歳)は、お笑い出身か?という程に面白く楽しいことが大好き。「将来は大物だね!」とよく周りから言われるそう。ママそっくりですね。

今月の表紙は、麦作部会の伊藤強部会長(高岡地区)のご家族です。奥様の弥生さんとは幼なじみで、2004年に結婚して15年目、一緒に居るとなぜか笑いが巻き起こるほっこりファミリーです。



▲子ども達の念願が叶い、柴犬のモコちゃん♀(9ヶ月)は最近家族に仲間入りしたばかり☆家族みんなの人気者です。

## 理事会だより

### 第7回 定例理事会 ～平成30年8月21日～

#### ■ 報告事項 ■

- 1) 余裕金運用状況報告について
- 2) 顧客属性システムの定期確認結果について
- 3) 農産物出荷状況について
- 4) JAいしかり役員作況調査について
- 5) 石狩まるごとフェスタ2018について
- 6) 外国人研修生の受入状況報告について
- 7) 内部審査結果について
- 8) 組合員加入脱退について
- 9) 寒冷地手当の支給について
- 10) 平成30年7月豪雨JAグループ支援募金について
- 11) 第29回JA北海道大会組合員組織討議資料について
- 12) 事故報告について
- 13) 農業委員会総会について

#### ■ 審議事項 ■

- 1) JA全国監査機構・一般監査の結果について
- 2) 外部出資の申込みについて
- 3) コンプライアンス規程の一部改正について
- 4) コンプライアンス・マニュアルの一部改正について
- 5) 燃料手当の支給方法について
- 6) 農地耕作条件改善事業に係る発注・リース業者の選定及びリース物件の導入について
- 7) 平成30年度決算見込みについて

おくやみ

石狩地区 高岡第1 松本 勇三郎 さん 享年90歳 平成30年7月24日逝去

謹んでお悔やみ申し上げます。



▼新琴似屯田兵中隊本部前にて



一、現代の屯田兵になる!!

新琴似神社の隣りに新琴似屯田兵中隊本部の建物があるのをこ存じの方々も多いと思います。昭和49年に札幌市指定有形文化財になっています。その年は札幌北陵高校に進学しました。当時高校生人口が増加し高校新設が迫られる中、道立のモデル高校として開校した私の母校ですが、屯田の校舎建設が間に合わず、旧札幌一条中学校の校舎（現・東区市民ギャラリーの位置）を仮校舎としていました。第三期生だった私は、新校舎完成までの4月から12月まで9ヶ月間バス通学し、当時中央バス車窓から毎日見ていたのがその屯田兵中隊本部の建物でした。

「この辺は屯田兵が開墾した土地なんだ」というのが私の記憶であり、爾来40年間ただ通り過ぎてきましたが今年5月、ようやく訪ねました。きっかけは農作業に起因する身体の痛みで近くの病院受診に併せて見学したのです。

明治8年開村第一号の琴似兵村は高校の授業で訪れていましたが、明治21年に開村した新琴似兵村本部を訪ねるまで42年かかりました。道内に全部で37兵村ができましたが、明治29年旧陸軍第七師団が編制されると「兵農相兼ヌルノ制」であった制度が否定されることになり明治37年9月8日廃止されました。

新琴似兵村は屯田兵第一大隊第三中隊の二百一十名で編制されました。その中隊本部は現在資料館で、展示資料を読んで驚いたことに、中隊員の約85%が福岡、佐賀など九州出身者でした。私の故郷石狩の南隣り新琴似と屯田は九州出身者で開墾された土地だったのです。命名から百五十年、松浦武四郎が「北加伊道」と記した大地の中心を札幌に決めた開拓判官島義勇も九州佐賀の人です。因みに私の妻は佐賀県出身です。

第三代中隊長の安東大尉は、当時泥炭地で作物があまり採れなかった土地の改良に取り組み、安春川を開削しました。この事業で排水がよくなり新琴似大根が盛んに栽培されるようになりました。屯田に移転した高校の新校舎まで毎日安春川を渡り通学しましたが、今や開墾された畑がすっかり住宅密集地が変わっています。

ます。川の名前は安東中隊長と開削工事責任者だった春山氏の一字ずつをとって命名されています。往年の新琴似大根も「石狩大根」にブランドが変わり、私達が生産している訳です。



▲石狩大根

防衛大学校学生だった頃よく言われたことがあります。それは「おまえは屯田兵の子孫か?」という問いかけでした。残念ながら私は屯田兵と縁のない道民ですが、先輩や同僚のそうした問いかけが屯田兵を意識させる結果となりました。平時は食料生産と教育訓練に励み、いざ有事には武器を手に国防の任に就いた屯田兵。時代は変わり、発足から半世紀以上憲法違反論争の渦中にあった自衛隊。定年退職した今、自分は「現代の屯田兵」ではないかと感じています。野菜栽培に取り組み傍ら「国の守り」という思いが継続しています。おそらく二度と武器を手にすることはないでしょう。しかし災害派遣以外のことで容易に理解してもらえない自衛隊員と市民の間の「同時通訳者」という役割、それこそがこれからの屯田兵に違いない、というのが私の持論です。

二、花畔屯田兵村本部

私は東千歳駐屯地で第七師団司令部の一員として定年退職しました。屯田兵制廃止のきっかけが旧軍第七師団であるなら、現代の屯田兵の始まりが陸自唯一の機甲師団第七師団かもしれません。私はまさに現代の屯田兵なのです。



陸自第7師団の記念行事にて (H30.5)

▼花畔屯田兵村本部



そんな訳で第38番目となる花畔屯田兵村本部をユウサン・フアーム内に置くことになりました。何はともあれ、言った者勝ちです。 (了)

(平成三十年八月十日記)

